

浄

monthly
JÔDO

土

April 2002

4



法然上人鑽仰会

ブロードバンドは、サービス品質で選ぶ。

サービスがより充実するにつれて
日本テレコム

ODNのADSLは最大1.5Mbpsの 超高速インターネット

※回線速度は、あくまでも理想状態で保証されるものではありません。
また、提供網からの距離などの要因により低下することもあります。

コンテンツも充実

ODNの「ブロードバンドチャンネル」は、音楽やスポーツ、
エンターテインメントドラマ、料理など楽しみながら見られる。

さらに大幅値下げ!

2,880円/月
24時間
常時接続

◎初期費用6,800円～
◎モデムレンタルの場合 500円/月
※NTT東日本・西日本の回線使用料として187円/月(タイプ1)が別途必要です。
※記載の価格は消費税別
(平成13年10月現在)

サービス 提供エリア 拡 大 中

札幌・仙台・東京・立川・
国分寺・武蔵野三原・千葉
市川・川崎・横浜・浦和・
川口・名古屋・京都・大阪
茨木・豊田・八尾・岸和
田・奈良・堺・和歌山・神戸
北九州(平成13年8月10日現在)

※上記のエリアであっても、ご提供
できない場合があります。詳しく
はホームページ、またはテレ
ホンサービスまでご確認ください。

【提供エリア専用テレホンサービス】

☎0088-222-357

【提供エリア検索ホームページ】

<http://www.adn.nk.jp/j-odn/>

ODNフレックADSLプランもあります。

大幅値下げ

日本全国
エリア拡大中

無料サポート
365日

安心の
回線システム



初心者でも安心の
サポートサービス

お問い合わせ
お申し込み
【ODNサポートセンター J-DSL担当デスク】
【受付時間】9:00～18:00(年中無休)

☎0088-222-375

日本テレコム
ならではの
保守管理体制

インターネットは日本テレコム

ODN
Open Data Network

ODNのADSL
J-DSL
パーソナル

源空寺

東京浅草

寺院紀行

寺に歴史あり。
人々に信仰あり。
日本の
心の故郷を紀行する。



上は源空寺第十九世角岡隆壽住職と奥様の和江夫人。下は源空寺本堂。

院号の由来はこの文殊菩薩像だ。



寺名の源空はこの法然上人像からつけられている。



本尊阿弥陀如来像。





本堂の奥が須弥壇となっていて、本尊阿弥陀如来像が奥に、手前に法然上人像が祀られている。道路からみると奥の部分がはっきりわかる。(写真左)



寺宝の谷文晁「草座の釈迦」。

道路を隔てたところにある源空
寺墓地。歴史に名を残す多くの
人達の墓が並んでいる。



国の指定史跡、伊能忠敬の墓。



笑顔の優しい源空寺第十九世角岡隆壽住職。



コンコースに、上野駅のイメージを大きく
変えるようなモニュメントがたっている。

浄土

2002/4月号 目次

カラーグラビア寺院紀行 東京浅草・源空寺.....	タカオカ邦彦	1
元祖法然上人のお誕生について.....	中村康隆	6
法然の誕生.....	梶村 昇	10
表紙の言葉.....	鈴木奈緒	15
寺院紀行 東京浅草・源空寺.....	真山 剛	16
連載 民話をたずねて.....	石崎敬子	24
響流十方.....	林田康順	32
新連載・食と健康.....	長田英樹	36
大特集・大本山吉水講.....		38
Jフォーラム.....		47
浄土誌上句会.....	選者＝増田河郎子	48
マンガで楽しい仏教用語.....	藤井ひろし	51
編集後記.....		52



表紙題字＝浄土門主 中村康隆宛下
アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎

元祖法然上人の
お誕生について

浄土門主 総本山知恩院門跡

中村康隆

法然上人は、長承二年（西暦一一三三）四月七日美作久米南條^{なちこそ}栃社の押領^{おうれうし}使漆間^{とさくま}時国公の一子として、隣村錦織^{にしじり}の村長秦氏^{むらわさはたうじ}の女（恐らくは清刀^{きよと}自^じか）を母として誕生されたと伝えられる。秦氏は、太秦^{うずまさ}の秦氏と同系の新羅渡来民だと思われるが、その原^{もと}は「新撰姓氏^{しんせんしやうじ}録」によると、秦王朝が漢に滅ぼされた折の朝鮮半島南端の地に移住した末裔が我が国に移住したものと思われる。

錦織郷^{にしじり}は後の錦織^{にしじり}、打穴^{うたの}の両村とされ、現中央町の中心部を形作り、秦氏はその中心勢力だったに違いあるまい。

この錦織郷を中心に広く、土師^{はじ}質亀甲型多脚円筒型高床式家型の陶器の寝棺が発見されていて、この地区が古墳時代既に特有の高度な文化圏だったことを示すと考えられる。錦織の秦氏こそその中心的勢力だったのであろう。

更に宗祖の両親が子授けを祈願した本山寺や、叔父観学得業が住持した菩提寺などは何れも渡来民らの合力による知識寺^{ちしきじ}（信施で建った寺）で、恐らく観学得業を住持に推し得た秦氏こそその中心勢力に違いはあるまい。

また『三大実録』、貞観七年十一月三日には、美作久米郡の秦豊永が天性親孝行で幼時

より両親を供養し、死後もその墳墓を守った志を愛でられて位三階に叙せられ、課役をも免ぜられたとし、現に錦織社の祭神として仰がれているということである。

次に宗祖の父方は、宇佐神宮の権大宮司漆島時経の子で、神領立石村出の元邦が延喜年中朝廷に仕えて従五位宮内少輔にされ、美作の地を賜つて、大野・神戸・稲岡の三莊を領し、久米の押領使（警察署長役）となり「神戸大夫」と称されて、海・菅原と共に作州の三館公（殿様）と呼ばれた家とされる。二宮の立石家の系図で、遠祖を神武帝の兄、稲米飯の命とするのも、稲作祈願の家柄の自負からかと思われる。その上司に宇佐大宮司の辛島氏があり、恐らくは朝鮮渡来の家柄で漆島家はその下官で、多分漆職業の家柄と考えてよいと思われる。

この三莊を国衙領とする見解もあるが、寧ろ二宮の神領としての莊園と見るべきで、その三莊の内、稲岡は錦織莊の南隣に位置し、大野・神居は錦織の北端を流れる吉井川の船着場の中須賀北辺に隣接していて、その東隣には、今は高野神社と呼ばれる社とその東隣に二宮町の立石家が今尚立派に残っているのである。

かように三莊が南北―錦織郷を挟んでいるのはむしろこれらの地域がその中心勢力の錦

織の秦氏所管地域で、稲岡の地こそ稲作の植付祭りに欠かせぬ場所だったに違いなからう。宗祖はこの稲岡北庄^{とらふせ}栃社の生まれで、その栃社^{とらふせ}のコソを新羅の初祖赫居世^{ひよくこせ}の尊称居世^{こせ}から出た神社の尊称だとする金達寿氏の説（『古代朝鮮と日本文化』〈講談社学術文庫〉）もあるが、私はむしろ祈りの古称「告祚^{こさ}」の古音コソ（漢音）が元意と考えている。栃社とは神聖な栃の木の下での稲作祈願の場所だったのである。

宗祖の生まれた時、生家の産室側の棕^{むぐ}の木に二流れの白旗が天降ったとする伝承は、両親の家から贈られた祝旗と解すべきで、白旗は源家の嫡男の誕生を示す意と見るべきであらう。

久しく後継ぎに恵まれなかった時国公の館に若君が誕生され、而も母君が受胎時剃刀を呑んだ夢を見たのを成人後帝王の戒師にもなろうとした占師の言葉を伝え聞いた村人達がどんなにか歓喜したことであらう。恐らくは天地が一時に輝くような瑞相を感じたに違いあるまい。それが白旗棕^{むぐ}の伝承となったのである。南無阿弥陀佛。

合掌和南

日本仏教史上
における

法然の誕生

浄土宗総合研究所客員教授
亜細亜大学名誉教授
梶村 昇

一、法然仏教の意義の確認を

今、法然上人を仰ぐ人々が、もつともしなければならぬことは、日本仏教史上における法然仏教誕生の意義を確立することだと思っています。これは従来も説かれてきたことです。それが十分ではなく、しかも当を得たものとは思われませんので、このようなことを申し上げるわけです。

何が問題かと言いますと、

一つは、法然仏教誕生の意義が、それ以前の仏教界との比較において、十分に把握されていないのではないかという点です。これについては以下試論を述べたいと思います。

もう一つは、日本の仏教史や思想史が、法然仏教の真義を正しく受けとっていないという点です。これは今日の主題ではありませんので、問題を指摘するだけに止めます。

それは端的にいつて「法然仏教は親鸞仏教に至る過渡的な存在であった」という見方が

一般的になっているということです。たとえば現行の高等学校の歴史の教科書に、

親鸞は師法然の教えを一步すすめ、煩悩のふかい人間（悪人）こそが阿弥陀仏の救おうとする相手であるという悪人正機の教えを説いた。

とあります。他の教科書も同工異曲ですが、これは明らかに誤りです。事実は「親鸞は師法然の教えを受け継いだ」のであって「一步すすめ」たというものではありません。このほか法然は半他力・半自力、親鸞は絶対他力というような説も、法然を過渡的な存在とみているものです。こうした誤った評価を後世に伝えてはならないと思います。

二、法然上人以前の宗教界―二階建の説

一つの錯覚 さてここでは今日の主題である「日本仏教史上における法然の誕生の意義」を、法然以前の仏教界との対比において、みてみたいと思います。

仏教は公伝以来、奈良・平安時代と繁栄を極めてきたことは周知の通りです。私たちはこれを聞きますと、当時、仏教は日本の隅々にまで浸透し、みんな熱心な仏教信者になったのではないかと思つてしまいます。

しかしちよつと立ち止まつて考えてみれば分かりますが、あの難しい仏教の教義や修行が、日本中に広まつたとは思えませんし、またそれまでの日本人の宗教、いわば根っ子の宗教ともいふべきものが、たちまち仏教に変わってしまったとも思えませんから、これは観念的・短絡的な錯覚だと気づかれます。

民族の三つ子の魂、それでは実際の宗教状況はどうであつたのでしょうか。一般的にみても、同じ仏教国であるタイ・スリランカ・中国・日本等々の仏教が、みんな同じとはいえません。それぞれ異なっています。それは民族には、民族独自の三つ子の魂というものがあつて、それが異宗教を容れていったからです。これは異宗教交流の一つのパターン

です。日本仏教も三つ子の魂が変容したものです（拙著『日本人の信仰』中公新書）。

どう変容したかといいますと、一言でいって、祖先崇拜仏教に変容しました。柳田国男が『先祖の話』（筑摩書房）の中に、

日本人は昔から、家の先祖は亡くなると靈魂（タマ）となつて山に帰り、あの世とこの世とを自由に行き来しながら、先祖という靈体に溶け込んで、麓の子孫を見守つてくれると信じてきた（要約）。

と述べておりますが、これが日本民族の三つ子の魂です。こうした心情は、民族の根源的なものですから消滅するものではありません。それどころか相手をこちらの土俵に引き込んで変容していきます。今の日本仏教をみれば明らかです。

二階建の説、こうみていきますと、当時の日本の宗教状況は、一方に盛大な仏教界があり、一方に仏教を変容しながら宗教生活をしていた庶民があつたということになります。

これはたとえてみますと二階建の家のようなもので、仏教界は二階、庶民は一階にいて、それぞれ勝手に展開していたということですから。しかもこの家には一・二階をつなぐ階段がありません。時には行基や空也のような傑僧が現れて、階段の役割を果たしましたが、それも一代の個人技に終わり、構造を改革するまでには至りませんでした。

三、一・二階をつなぐもの

これが平安末期までの日本の宗教状況であったといえます。法然上人はこの状況下に、美作国という一階から、比叡山という二階に登って、仏教の勉強を始めました。二階では仏教教学の研究が盛んでした。ところが教学というものは、論理の整合性を重視しますから、論理を追っていくうちに、現実を遊離した観念論に陥る傾向があります。法然上人が逢着した仏教がまさにそれでした。上人はこう述べております。

おほよそ仏教おほしといへども、所詮、戒定慧の三学をばすぎず。：我等ごときは、すでに戒定慧の三学の器に非ず。この三学のほかに我が心に相応する法門ありや（『四十八巻伝』第六）

と。仏教は戒定慧の三学を守れという教えであるということです。しかし私には守れないと嘆いているのです。これは教学が、現実を遊離した観念論であるということです。これでは一階の庶民はもちろん、二階の僧侶も守れません。守れというのに守れないのですから悪人というほかないでしょう。しかし悪人こそ救われなければならない者です。

上人はその悪人の救われる道を求めて二十五年、阿弥陀仏の誓願に邂逅しました。その誓願とは、誰でも心をこめて南無阿弥陀仏と称えれば、極楽に往生できるといふものです。これによって一・二階に通じる階段が掛けられました。なぜなら、

第一に、この教えは、誰にでもできる易し

古き伝統技 三代にわたる信頼

有限
会社

浄土宗法衣専門
古島法衣店

〒114 東京都台東区元浅草4の2の1
電話(03)38421289
振替0018002145231

い行だからです。仏教は難しいと仰ぎみていた一階の人々も、三学の器でないと嘆いていた二階の僧侶も、いつでも、どこでも、南無阿弥陀仏と称えれば救われるということですから。万人の救われる道です。

第二に、この教えは、仏教の心髄だからです。上人はこれは「弥陀にも利生(りしう)の本願、釈尊にも出世の本懐(ほんかい)」（津戸三郎への消息）と述べております。この教えを説くために釈尊はこの世に出てこられたということです。上人の勝手の説ではないということです。

第三は、この教えは、民族の三つ子の魂に相応するからです。極楽との往還(おうげん)を説く浄土

教は、山と里とを自由に往還すると信じてきた靈魂に足を踏まえたものとなりました。日本仏教史上における法然仏教誕生の意義は、階段をもたなかった二階建宗教構造に、初めて階段を掛けたということです。少なくともこれは一つの意義といえます。法然仏教が日本仏教史を前後に二分したというのも、この意味からいえます。

ただ真実の宗教は稀有な存在ですので、ともすればこの階段がはずれて、また階段のない二階建構造に陥る怖れがあります。この階段を堅持することが、上人の道統を仰ぐということでしょう。

4月

◆表紙の言葉◆

能素描

羽衣

はごろも

作は世阿弥。春のあけぼの、三保の松原、白い砂浜、青い海、羽衣をまとして軽やかに舞う天津乙女の清々しい能である。

漁夫の白龍はある春の朝、三保の松原に釣に出る。すると空からは花が降り妙なる音楽がきこえ、佳い香りがただよう浜辺の松の枝に、美しい衣が掛けられているのを見つける。

家の宝にしようと手にとり帰ろうとすると、天人が現れて衣を返して欲しいと頼む。一旦は断った白龍は、嘆き悲しむ天人に心を動かされて、天人の舞楽を見せてくれるなら、衣を返そうと言う。衣を着なければ舞えないとの天人に、衣を返せばそのまま天に帰ってしまうのではないかという白龍。天人は答える、「疑いは人間にあり、天に偽りなきものを」。

恥入った白龍の返した天の羽衣を着て天人は、富士の高嶺を背景に華麗な喜びの舞、祝福の舞を舞いながら、やがて霞にまぎれて天に帰って行った。

表紙画と文

鈴木奈緒

プロフィール 1947年 三岸節子先生に師事
 1950年 女流画家協会展 H 婦人賞受賞
 1983年 秋耕会展 女流会長賞受賞
 1994年 秋耕会展 文部大臣賞受賞
 個展23回開催

寺院紀行

東京浅草

源空寺

撮影／夕力才力邦彦
文／真山 剛



源空寺山門。左手前が鐘樓堂、右奥が本堂。

落慶の 今日^{ぎょう}は御忌^{ごぎ}会で 大鐘が
ごおんごおんと なる源空寺

平成二年五月二十五日の源空寺御忌法要、徳川家光寄進の名鐘といふことから太平洋戦争での供出をまぬがれた源空寺の梵鐘が、鐘楼堂落慶を祝うように、六十八年ぶりに厳かに鳴り響いた。

名利が多く残る浅草でも徳川家康が関東に入国し、最初に開創し、しかも法然上人の直弟子が護持していた法然上人像をお祀りしている源空寺を訪れた。

さて、源空と聞いて多くの読者はきつと同じ文章を思い出すに違いない。浄土宗の法要であげられるお経の中で、私たちに一番よくわかりやすい、あの文章だ。

「(略) 浄土宗の安心起行 この一紙に至極せり 源空が所存この外に全く別義を存ぜず(略)」。そう『一枚起請文』だ。

この『一枚起請文』は法然上人が往生する二日前に記したものだ^が、ここに出てくる源空は法然上人の別名で、法然房源空が本来の名前。源空寺はまさにこの源空を冠しているのである。

「普段は短歌を詠むことなどないのですが、取材されるのに何の資料もなしではわかりにくいと思い、そこであわてて詠んでみました」



徳川家光寄進の名鐘は戦争での供出をまぬがれた。

正式には五台山文殊院源空寺の第十九世角岡隆壽住職はこう言いながら、本堂の法然上人像の前に座られた。

源空寺の本堂は完全防火の間口三間、奥行き五間の本尊阿弥陀如来と法然上人像をお祀りする須弥壇がちょうどおさまる歳の伽藍、そしてその手前に七間四面の本堂がつながっている。そして須弥壇の奥には本尊阿弥陀如来像、その手前の法然上人像のほかにも文殊菩薩像などがお祀りされている。

その法然上人像の前に住職は端座しながら、昭和五十七年に住職を拝命されてからの主な出来事を書き留めた年表、そしてさらにその時々的心境や状況などを短歌に詠んだ資料を広げてくれたのである。これだけの準備をしていたのは初めてで、深謝の極みである。

さて、その短歌披露の前に、この源空寺の沿革を繙いてみよう。

源空寺の開山は慶長九（一六〇四）年、開山は当時学徳の誉れ高き幡随意上人に師事した円誉霊門上人。そして開基は徳川家康。

開山のきっかけは、霊門上人が天正十八（一五九〇）年に湯島に作った草庵で、一食不臥の修行をしていた時のことである。その修行に打ち込む姿に多くの信者が集まり、やがてその噂が徳川家康の耳に入った。家康はすぐに霊門を呼び寄せ、話をする中でその徳の高さと見識に驚き、以来家康は霊門に浄土宗の安心起行の教えを請



源空寺のある浅草は明暦の大火以後、各地の寺院が集められて寺町となった。いまでは仏具店街としても有名だ。

うこととなった。ちなみに霊門は秀忠、家光と將軍三代に浄土の法門を説くこととなる。さて、その霊門がある日夢を見る。

法然上人の直弟子、熊谷直実と並ぶ関東武士で法然門下の一人、

つのとさぶろう

津戸三郎が護持していた師法然上人の像が、自分に寄贈される夢だった。今では夢など一蹴されてしまうが、かつての夢のお告げは天の声、仏の声である。その夢を告げられた家康は万難を排し、その像を探した。

霊門と家康の願いは通じ、法然上人の像の在りかがしれた。津戸三郎の流れをひく伏見氏が所蔵していたのである。家康の口利きで伏見氏もその像を気持ちよく文殊院に寄贈した。そうした由緒ある像を祀るのに草庵というわけにはいかぬ、家康は霊門に寺領を寄進、一か寺建立となった。そしてその名を法然上人像のご縁から、源空寺としたわけである。

余談だが、この津戸三郎の末裔は東京国立市にある谷保天満宮の宮司をされていて、谷保天満宮には法然上人作と伝えられる阿弥陀如来座像が残されている。関東に足をのばされなかった法然上人だけに、その像の貴重さについては改めて述べる必要はないだろう。

法然上人と縁深きこの関東に残された、二体の像、その霊験もあらたかである。



本堂から見る参道。参道の両側にはきれいに手入れされた四季折々の木々や花々が並ぶ。

御本堂 一周忌への お念佛
母三昧中 弥陀現れる

角岡住職は昭和十四年、福岡県甘木町の法泉寺に佐々木達壽住職の六人兄弟の三男として生まれた。佛教大学を卒業し、会社へ勤務したのち起業。そして縁あつて源空寺の先代、角岡大雲住職の娘さんと結婚、昭和四十一年に源空寺に入られた。

先代大雲住職は大正の大震災、第二次世界大戦で二度焼失した伽藍を二度再建するなど、現在の源空寺の基礎を固めた方でその温厚で徳深き人柄は、『源空寺史』の中で檀信徒によつて語られている。その大雲住職が遷化（僧侶が亡くなること）されたのが昭和五十七年十二月二十六日。そして一年後に福岡から角岡住職の両親が上京、同月同日の朝に三人で念仏を称えた時を思い出して歌われたのが先の歌である。

念仏が終わるとすぐにお母さんが興奮気味にこう言った。

「隆壽や、今日の念仏は大変ありがたかった。おがんでいたら白木の空殿が極彩色になって、きれいできれいで。そのうち空殿が消えて、裏から阿弥陀様が出てこられたよ」

そう言われ、角岡住職は先代が遷化して三か月後の事を思い出した。その日はなぜか夜中に目が覚め、無性に念仏を称えたくなった



本堂の前に観音像が立っているが、観音様は角岡住職の守り本尊のような仏様だ。

という。そして、わざわざ衣に着替え本堂に着座、念仏を称え木魚を叩いた。第一打とともに無意識に時計を見ると夜中の一時十五分。それから夜通しで念仏を称えた翌朝、家人に言われて気がついた。木魚の第一打を打った瞬間がまさに先代が遷化した日時と寸刻違わなかったのだ。これは何かのお導き、と思い起こし詠んだのが次の歌である。

大いなる 系にひかれて 本堂へ

一打の念佛 父の命日

「いや、本当に思い出すと不思議なことが何度もありました。お寺ではいろいろな行事をしていますが、なぜかいつも晴天に恵まれます。

また子供の頃は実家の法泉寺で、毎朝観音堂を掃除するのが日課でした。掃除しないとご飯を食べさせてもらえないまま、学校に行くことになりました。そうした縁か、夢の中で亡くなった父に観音堂の前で会ったり、観音経に書いてあるのですが、喧嘩した時になぜか無傷でいられたこともありました。自分は観音様に守られているなと思ったことは何回もありますね」

六十三歳のご住職に「つぶらな瞳」という形容が不適切なのは



食器など調理用品などの問屋街・合羽橋。源空寺からすぐの通りだ。

重々承知の上だが、本堂の法然上人像の前で角岡住職が、そのつづらな瞳を輝かせながら一所懸命にお話をされる。こういう仕事柄、何でも疑ってかかってしまいがちなのだが、そのご様子に口ばかりか心も肯いていた。手書きの年表にあわせ、話は進んでいく。

先代の大雲住職も源空寺の興隆に尽くされたが、角岡隆壽住職も昭和六十三年に本堂、客殿、庫裡の落慶という大事業を成し遂げられている。落慶という大事業が終わると体を壊されたり、あるいはその心労からか遷化される住職も少なくないのだが、角岡住職の場合はいぶ違う。

「設計図の変更は一切無し、費用も見積もり以上は一円も増えなかった。うちはいいお檀家さんに恵まれていることもあります。本堂を建てているとき程、楽しかったことはありません。女房も良い思い出と言っています」

読者の中の僧侶にも、こういう方はあまりいないのではないか。大事業には心労が付き物というのが一般的だとは思うのだが、どうやら源空寺はその心配とは無縁のようだ。

さて、この源空寺には法然上人像以外にも多くの寺宝が残っている。行基作といわれる本尊の阿弥陀如来像、弘法大師作といわれる文殊菩薩像。さらに江戸時代後期の文人であり、また関東の南画様式を確立した画家、谷文晁の名作「草座の釈迦」や、明治大正の名



高橋至時の墓。至時は江戸幕府の天文方に任ぜられ、年下ながら伊能忠敬の師となった。

僧山崎弁栄上人の阿弥陀仏像。家光寄進の梵鐘は国の重要美術品でもある。さらに道路を隔てた墓地には国の指定遺跡、伊能忠敬と高橋至時の墓が並んで立っている。

伊能忠敬は日本地図を最初に作った測量家として知られ、高橋至時はその師である。また先の谷文晁の墓もあり、こちらは都の指定旧跡となっている。

浅草ならではないのか、落語家の初代柳亭燕枝、幡随意長兵衛夫婦の墓などもある。

こうした寺宝のほかに、角岡住職が書かれた『仏説阿弥陀経絵図・現代語訳』や山崎弁栄上人の阿弥陀仏を結縁仏としたオリジナルのお守りもあるが、最後にそのお守を詠んだ歌で締めくくことにしよう。

お守護を 作りてうれし 源空寺
幸せもとめ 共に生きたい

(ルポライター)



念仏者として有名な山崎弁栄上人の阿弥陀如来絵像。定例の土曜念仏会ではいつもこの絵像がかけられる。

民話

連載

をたずねて

石崎敬子

娘の骸骨



昔、あるところに爺がおったと。たいそう貧しく手間賃を取り、その日暮らしをしておったと。

いつもは村人の頼まれ事を引き受けておる爺であつたが、今日4月8日だけは、ゆつくり休み、ゆるゆると酒でも飲もうと、前々から楽しみにしておったと。ところが、どうしてもと、急な用を頼まれ、爺は、仕方なく徳利を下げて用先に出かけたと。

その途中、広い野原にさしかかったと。

「今日はなんともええ天気じゃ。足も痛むし、この辺でちいっと休むとするか」

さあ、ここで一杯やろうと、いい塩梅の石を見つけ、どっこいしよと腰をかけた。盃を口元に持っていこうとした時、ふと足元を見やるとに骸骨が倒れかかっておる。

「これはこれはどなたの骸骨か知らんが、わし一人で酒を飲んでも面白くもない。お前様も一杯やりなされ。これこのように花も咲き揃うておる。一緒に花見をするべ」

爺は骸骨にそう話しかけ、酒を注ぎかけた。

「旨からう、な。」

これでよい、これでよいと爺も旨そうに酒を飲んだと。ひとしきり唄を歌い花見を楽しんだ爺は、ああ面白かったと腰を上げ、その場を立ち去って行ったと。

用を済ませた帰り道、またその野原を通りかかったと。すでに日は落ちかけており、爺は急ぎ足で歩いておったと。すると、

「爺様、ちよつと待つてくだされ」

と、後ろから呼ぶ声がする。誰だ、と振り返って見ると、すぐ後ろに十七、八のなんとも美しい娘が立っておる。

「あのう、今日は爺様のお陰で本当に楽しい思いをさせていただきました。お礼をしたいと思い、こうして待つておりました」と、愛らしい声で娘が言ったと。

これは狐だな、狐に化かされるのはこんな時だ、油断ならぬと思いつつ、爺は聞いてみた。

「姉様、どういふことかな」

「はい。私は三年前のちようど今頃、野方に出るところで急病になり、そのまま行き倒れになつてしまいました。両親は私を探したも

の、今日まで見つけられぬまま、私はここで暮らしております。そしてこの月の二十八日、ちょうど私の三年忌に当たり、法要が行われることになっております。爺様、その日は何用をおいてもここに來てくだされ」

娘の話を聞いた爺は、ますます狐だと疑ったが、ここは事を荒立てても仕方がない、いい加減にあしらって、きつさと立ち去ろうと思つたと。

すると娘は、爺の心の中を見抜いたように、

「爺様、おかしな話とお疑いでしようが、とにもかくにも二十八日の朝、私を迎えに来てくだされ。必ずですよ。この通りです」と言い、拝むように白いすんなりした手を合わせた。

爺は、よしわかつたと約束して、娘と別れた。

二十八日の朝、爺は半信半疑であつたが、それでも出かけた。野原に行つてみると、もうすでに娘が待つておつたと。

「爺様、来てくださつたのですね。それでは、参りましょう」娘に連れられて行くと、ほどなく隣村の大きな構えの家に着いた。その家には村人が大勢寄り集まつておつたと。

「わしはとても入れぬ」

爺が尻込みしておると、娘は、

「それなら私の着物の袖を掴^{つか}みな

され。そうすれば爺様の姿は皆の

目には見えなくなります」

と、片方の袖を爺に差し出したと。

言われるまま娘の着物の袖を掴^{つか}む

と、不思議なことに誰にも咎めら

れず、難なく家の中に入ることが

できた。

村人達の間をすると通り抜

けた爺は、仏壇の間に座らせられ

たと。そのうち、お吸い物が出さ

れ、酒が供えられると、娘は爺に、

「爺様、さあさ、あがれ、あがれ」

と、すすめたと。大好きな酒だも

の、爺は遠慮なく飲んだと。続い



て、本膳が据えられると、爺はそれもべろりとたいらげたと。満座の僧侶や親族達は、仏の前の供膳の物が、いつの間になくなるので、これはどうしたこと、不思議なこともあるものだ、と顔を見合わせておったと。

やがてお膳を下げる段になって、女中が謝って皿を落として割ってしまつたと。

「なんて事をするつ。代々伝わる大事な皿だぞ。大切に扱えとあれほど言っておいたではないか」

主人は目をつり上げ、おろおろしておる女中をひどく叱つたと。それを聞いておった娘は、

「あのような騒ぎを見るのは嫌です。私はこれで行きます」と、美しい顔をしかめ、きつと立ち上がったと。

「では、わしも」

「いいえ、爺様はここにいてくだされ」

立ち上がろうとする爺を止めて置いて、娘ばかりがどこかへ立ち去つたと。

娘が立ち去つた途端、爺の姿が皆に見えてきたと。爺は皆に座敷

の真ん中に連れ出された」と。

「おい、爺様。お前は、どうしてこの座敷に来ていたか」

訳を話せと皆に詰め寄られて、爺は隠すことも出来ず、一部始終を包み隠さず話したと。

話を聞いた主人夫婦や親族一同の者は驚き、さらに詰め寄ったと。

「で、その娘は、どうなった」

「先刻の皿の騒ぎで、ここを立ち去った」

「では、その娘の屍のある野原に、案内してください」

頼む拜むと皆から口々に言われた爺は、それではと先に立ち、その後を和尚両親親族が続いて野中に行ったと。娘の骨はすぐ見つかり、一同は帰って再び葬礼を行い、娘の魂を慰めたと。

その後、爺は娘の両親から慈悲をかけられ一生安楽に暮らしたと。

ひざ・ひじ・肩・腰の

関節の痛み、 がまんしていませんか？



全国75万人以上、つらい関節痛でお悩みの方に朗報です。

ひざが痛くなる仕組み



気になる関節
軟骨がすり減って骨と骨が
ぶつかり痛みが生じます。

材として注目の
天然成分ドロマイ
トなどを配合し、
のみやすい粒状
にしてあります。
まずは30日間、お
ためしください。

「歩くのがつらい」「正座ができない」「階段の昇り降りがひと苦労」など、ひざが気になる中高年はたくさんいます。これまで特効薬がないとされてきた関節症ですが、あきらめないでください。いま話題の天然栄養素グルコサミンが、痛みのもとに直接働きかけて、あなたの関節をラクにします。

そしてグルコサミンの決定版といえ
ば、「元氣堂粒」。カニの甲羅から抽出し
たグルコサミンとサメ軟骨抽出のコン
ドロイチン、さらに、神経痛などへの効
果から「奇跡の貝」と呼ばれている緑イ
貝エキスを、理想的なミネラル補給食

長年のひざの痛みを忘れて、
鼻歌が出るほどうれしい!!

痛くて正座もできない。そんなとき、ふと目にしたのが「元氣堂粒」の広告でした。のみはじめて2週間目の朝、驚いたことに痛みが消えていたんです。思わず鼻歌が出るほどうれしかった。これは本当にすごいと思いました。



藤本照子さん
(長野県・67歳)



選ぶなら、たしか品質の本物を！
天然の栄養素だから安心です。

●グルコサミンの原料には、山陰を代表する漁業基地・境港で水揚げされた新鮮な日本海産ベニズワイガニを使用。コンドロイチンには宮城県仙仙産の厳選したサメ軟骨を使用しています。高品質をお求めの方には「元氣堂粒」をおすすめします。

■主要成分：グルコサミン塩酸塩/コンドロイチン硫酸/ドロマイト/緑イ貝エキス/大豆イソフラボン/生姜エキス

商品のお申し込みについて(元氣堂本舗からのお知らせ)

げん き どう づぶ
『元氣堂粒』10,000円(税別)

■ 内容量300mg×300粒・約1ヶ月分

※送料は数量にかかわらず全国一律500円。

※3ピン以上のご購入は10%割引になります。

- 商品は1週間前後でお届けいたします。●代金は商品到着後1週間以内に郵便振替でお支払いください。ただし3ピン以上ご購入の際は代金引換でお支払い願います。
- 返品は商品到着後8日間以内。ただし送料はお客様ご負担。開封後の返品はご容赦願います。

ご注文は電話かハガキかFAXで



0120-13-8869

受付時間(年中無休)
午前8時～午後9時

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-34-7
(株)元氣堂本舗 浄土 係

FAX 03-5777-5149

※ハガキまたはファクスでご注文の際は、郵便番号、ご住所(フリガナ)、お名前(フリガナ)、生年月日、性別、ご職業、お電話番号、商品名、数量、ご購入になった雑誌名をご記入ください。

インターネットでもお申し込みになれます。 <http://www.genkidohampo.com/>

学生骨になりて、念仏やうしなわんずらん。

『つねに仰せられける御詞』

学者ぶって念仏をあれこれ議論していれば、いつしかお念仏を称えなくなってしまうことでしょう。

（お念仏＋信心）―お念仏＝信心？

一月、かつての教え子であるM君が亡くなりました。受験を控えて剣道部を引退した高校三年生の一学期に白血病に倒れ、約半年後のことでした。

明くる二月、超宗派のとある勉強会で「浄土宗の教え」について話をする機会がありました。法然上人は「仏説はどれも百点満点！」という一代仏教觀を終生堅持され続けました。ですから、この身このままで悟りを目ざす聖道門の教えは、いずれも百点満点です。その上人が、なぜ浄土宗を開宗しなければならなかったのかという点に主眼をおいて、「俱会一処」法然上人のものさし」と名づけた講義をすすめました。

実は、聖道門各派や真宗が説く浄土は、この娑婆世界を含めた宇宙そのものとしての浄土、この私自身の心そのものとしての浄土、あるいは、姿・形のない理法そのものとしての浄土のいずれかへと帰着します。しかし、法然上人が帰依されたのは、煩惱多き「この私」たちをなんとかして救おうと本願を誓い修行を重ねて成仏された阿弥陀さまであり、求められたのは、命終後に「この私」と今は亡き大切な「あの方」との心と心のふれあいである俱会一処が叶い、そこで悟りを開くことができるお浄土なのです。こうした阿弥陀さまとお

浄土であるからこそ、〈この私〉を往生させるために阿弥陀さまご自身が本願としてお誓いになったお念仏を称えることが肝要となり、〈この私〉自身の死、そして、今は亡き大切な〈あの方〉の死を真摯に見つめることが信仰への入り口となるのです。

一連の講義・実りある質疑応答の後、「まとめ」と称して主催者H氏が「最澄の教えを深め徹底したのが日蓮であり、空海の教えを深め徹底したのが道元である」と語りはじめました。そして「お念仏と信心の二つを必要とした法然上人の教えを深め、信心一つに純化し徹底したのが親鸞であり、私たちは宇宙そのものとしての仏に帰依することこそ大切である」と結論づけたのです。講義の中身もさることながら、現在の高校生が使用している社会科学の教科書を提示して教団の大きさと祖師の教えの質を比例して語っている現状に警鐘を鳴らし、加えて、超宗派の会合では「どの宗派の教義も百点満点!」という立場がとられるべきことを講義冒頭に披瀝していた私は、あまりのショックに驚きを隠せませんでした。同席していた天台宗や真言宗の僧侶方から、さぞや次々と噴出するであろうと思われた反駁もないので、「先生がどのように受けとめら

れても構いませんが」と前置きしつつも、私は次のように応答しました。H氏の説示はあくまでも真宗側の視点に立っており、浄土宗の視点とは大きく隔たっていること、そして、「現実存在としての〈この私〉の死」を真摯に見つめることが浄土宗の教えを知り、それに帰入する最短・最善の道であると再説しました。

するとH氏は、なんとコップに注がれた水の蒸発に「人の死」を譬えたのです。どこまでも観念としての死を抜け出せないH氏に対し、冒頭の法然上人のご法語がふと脳裏をよぎり、「これでは、〔お念仏十信心〕ーお念仏〓信心」との数式で浄土宗と真宗の教えを対比してしまうのも無理はない」と半ばあきらめつつ、再び同様の前置きをしてこう応答しました。「私は、墓参をし仏事を営んで、今は亡き〈大切なあの方〉への祈りを込めて真摯に掌を合わせている方々に、ましてや、最愛のお子さまを亡くし、出棺の際、亡骸に顔を寄せて泣き崩れているお母さまに対し、今先生が話されたコップの水の譬えを用いることは終生ないでしょう」と。

合掌

(大正大学講師・林田康順)

食と健康

①

健康づくりの基本は

自然食

国民の年間総医療費が「三〇兆円」を突破したのが一昨年。不景気が叫ばれる暗い世のなかで、医療費だけは毎年一兆円ペースで増加しており天井知らずの様相です。それほど病人が激増しています。医学が進歩したはずなのになぜでしょう。なんとかこの医療費に歯止めをかけなければならぬと思います。

つい数年前「成人病」の呼び名が変わりました。成人病とは本来、四〇才を超えた大人の病気だったのですが、近年、小学生レベルにも罹患者が激増したため「小児成人病」と呼ぶようになり、さらに苦肉の策として「生活習慣病」にしたのです。生活習慣病の大多数



長田英樹

(財)自然農法国際研究開発センター研究員

が食生活に起因するのですから「食源病」と呼ぶべきだというのがわたしの主張です。

わたしは近い将来、医療費負担によってわが国が存亡の危機を迎えるのではないかと危惧しています。病人を減らすことを国策としないかぎり避けられない運命であると考えなのです。「自然食」をおすすめるのはそのためです。基本的には農薬や化学肥料を排除した自然農法を実施し、そこで収穫された農産物を食し、それらを原材料に食品添加物・化学物質を使用しない加工食品を食生活に取り入れることです。

EMがそれを可能にしてくれます。EMと

はEffective-Micro-organismsの頭文字をとつたもので「有用微生物群」を意味します。すなわち人間や植物にとつて有益な酵母菌や乳酸菌、光合成菌、麹菌などを液状に組み合わせたもので、味噌、醤油、納豆などの発酵食品をつくってきた微生物と考えてください。

EMは琉球大学の農学博士・比嘉照夫教授によつて開発され、デビューして二〇年目を迎えました。はじめは農業資材として登場したのですが、現在、生ゴミ処理、水質浄化、養殖漁業、畜産、悪臭対策、果ては学校教育にまで取り入れられ、ほぼ全世界を網羅するほど多くの国で活用されています。タイ、ミャンマー、ベトナム、北朝鮮など数力国では国レベルで取り組んでいます。

国内での普及もめざましいものがあります。一月二九日から三日間、幕張メッセで開催された「活力自治体フェア2002」(フジサンケイグループ主催)では、EMを活用して「環境浄化」や農業に取り組んでいる自

治体の発表が陸続しました。それを傍聴して、悲観材料ばかりだったわが国の未来に大きな光を見出した思いに至ったのはわたしだけではなかったはずで。

福井県宮崎村の木村橋次郎村長は平成七年に初当選以来、村民の不満が強かった下水の悪臭を解決するためEMを活用したのがはじまりで、以後、生ゴミ処理で多大な成果をあげたこと、県下最低レベルであった財政が向上して上位になったこと、医療費が激減したこと、農業収益があがったことなどを発表。さらに「観光客がこの村へくれば心が安らぐとよろこんでいる」と結んでいました。

比嘉教授は常々「抗酸化物質であるEMで栽培された農作物を食べると健康になり国民総医療費を半減できる」と語っていますが、その裏づけでもありました。

EMが地球環境問題解決の主役に躍り出たことを実感できて、わたし自身あつくなくなりました。

シリーズ詠唱

特集

大本山増上寺吉水講 創立二十周年

念仏の縁を結びて 20年

詠唱に
心うたれて

副総本部長

蓮池光洋



吉水講二十周年記念石碑建立

3月16日建立

大本山増上寺吉水講二十周年を記念し、
浄土宗吉水講発祥の地、大本山増上寺に
記念石碑が建立された。



なぜ今二十周年を

増上寺吉水講が二十周年を迎えるということとを肌で感じるようになったのは、十七、八年目が過ぎたころでした。

私たちだって年齢をとっていくのだ。今、二十周年をここでやらなければ、いつ誰がやるのだ。そして今やらなければ詠唱による檀信徒教化の大きなかまりが少しづつこわれていきそうだと感じたからです。

また菊地謙雄教導司、松濤基道教導司、池上靈心教導司、北山良祐詠唱委員等、戦後の敗戦荒地から「お念仏の助業である詠唱」を生み育てて下さった立派な先生方が現にお元気で活躍して下さっているではないか、その先生方のためにもという気持ちもわきました。

今だ、今こそ二十年だ。先生方のおかげでこんなにも心が強く、こんなにも生きる喜びを与えて下さって本当に有難い。全ての吉水講々員がそんな思いでいたからこそ二十周年を迎えられたのです。

詠唱大会が実現される

昭和五十三年七月、増上寺は藤井實應台下を御法主にお迎えして「念仏教化の本山」を目ざしていました。当時の金田内局は、かつて増上寺に発祥した詠唱に目をつけられ、これを再び縁山に復活する旨、神奈川、静岡で活躍の菊地謙雄上人、曾我晃也上人、北山良祐上人等、詠唱の先生に呼びかけられたのです。

金田執事長が常に申しておられたことは「知恩院は今すごいぞ、おてつぎもさることながら詠唱はめざましい。詠唱大会の大殿の勢いといい、この間の岸信宏殿下の御葬儀などの詠唱講員さんの奉納ご供養は見事だったよ。増上寺にも詠唱をもってきたいがどうだろう」。

どうだと言われても私はまだ詠唱かけ出しの身、「それはいいことですね」としか言えませんでした。執事長は諸先生方のご賛同を得、いつの間にか善導忌を迎え詠唱大会が実現したのでした。

増上寺吉水講涙の結成大会

昭和五十七年四月十二日、増上寺吉水講総本部が結成されました。そのかげには多くの詠唱関係者のご努力があつたことは言うまでもありません。

結成大会の当日、知恩院鶴飼隆玄執事長が知恩院吉水講総本部長として来賓の祝辞を述べられました。声がつまり、「創立おめでとうございます。よかつたよかつた、本当によかつた」と言つて涙を流しておられました。増上寺の金田明進執事長も一緒に泣いておられました。

まさに涙の奥には結成に至るまでのご苦労がしみこんでいたに違いありません。そのあと両執事長が抱き合つて堅い握手を交わしておられた姿が今でも目に浮かびます。

当時は善導忌、生誕八百五十年など総大本山は檀信徒の教化に力をそそぎ、全国への念仏教宣を主張していたこともあつて両執事長の思いは格別であつたにしても、本当に印象的な光景でした。

かげの力の故北山上人

二十周年記念法要の中では設立当初より今日に至るまでご功労を賜りました十三名の方々を表彰させていただくことになっております。教導司先生、歴代総本部長、詠唱委員、作詩作曲家の諸先生方です。

その中でこの二十周年を心から待ち望んでおられたお上人がおられます。

去る二月十九日忽然として弥陀の浄土へ赴かれました静岡教区光心寺の北山良祐上人です。上人のように真剣に念仏をひろめられた方は全国でも数少ない。

もう一度上人にお会いして念仏者としての生きざまと詠唱教化についてお聞きしたいことがあつたのにと悔んでおります。お見舞に行こうと思つていた矢先のご遷化であるだけに、上人を失つたことはとても悲しく淋しいものがあります。

二十周年、二十周年と口ぐせのように仰られつつ浄土に向われたとお聞きし、返す返すも残念でなりません。吉水講が今日あるのは北山上人の目に見えぬ大きなご尽力の賜なの

であります。知恩院吉水講においても増上寺吉水講においても、いなくてはならない貴い存在でありました。

増上寺吉水講が創立した時にも、宗と知恩院と増上寺の間に入ってご尽力下さり、そのお陰が今日の二十周年につながっているのがあります。詠唱の功業者として門主親下より表彰を受けられたほど、詠唱に特別な熱意を傾けられたご上人です。当山でも二十周年に北山上人を表彰し讃えることになっておりましたのに、心から哀悼の意を表し思います。

発展までの苦労話

昭和五十五年四月にスタートした「増上寺詠唱大会」は善導大師千三百年遠忌を記念して開かれました。昭和二十一年八月に増上寺において詠唱が発祥して以来、久しぶりに吉水流が流れた記念の年となりました。翌年は「御忌詠唱大会」として開催され、二年後の昭和五十七年四月十二日に「増上寺吉水講結成式」が行われました。ちょうど「法然上人降誕八百五十年慶讃詠唱奉納大会」と併修され正式に大本山増上寺吉水講総本部が結成さ

増上寺吉水講結成当時の大会

昭和57年 4月12日
法然上人降誕850年
慶讃詠唱奉納大会
「増上寺吉水講結成大会」

参加者		
神奈川教区	20支部	391人
静岡教区	16支部	237人
群馬教区	5支部	95人
東京教区	3支部	64人
山梨教区	2支部	34人
栃木教区	2支部	30人
青森教区	1支部	30人
埼玉教区	1支部	25人
長野教区	1支部	24人
岩手教区	1支部	18人
山形教区	1支部	8人
宮城教区	1支部	3人
秋田教区	1支部	1人
茨城教区	1支部	1人
合計		961人

午前中 大殿、結成式 ご親修 法
然上人生誕ご和讃、全員／
大殿、支部奉納

午後 法然上人降誕850年慶讃日
中法要 詠唱行列／ふたは
たの御詠歌、法然上人生誕
和讃、青龍寺の御詠歌 全
員奉納

昭和56年 4月12日

「御忌詠唱大会」

参加者		
静岡教区	23支部	285人
神奈川教区	5支部	307人
群馬教区	5支部	75人
東京教区	2支部	50人
山梨教区	2支部	27人
合計		777人

見学10ヶ寺あり

午前中 大殿、全員奉納ご親修 来
迎和讃、御忌和讃、いろは
和讃

午後 大殿、支部発表

昭和55年 4月12日

善導大師1300年遠忌記念 「詠唱大会」

参加者		
静岡教区	14支部	279人
神奈川教区	6支部	177人
東京教区	3支部	63人
群馬教区	3支部	45人
山形教区	1支部	4人
合計		568人

午前中 大殿、開会式ご親修
午後 三階道場、詠唱発表
関東教化センター主催か

れたわけであります。前にも述べたとおり関係者各位の長年の念願であつたわけです。目に見えないご苦労が実つて実現した「増上寺吉水講」です。知恩院総本部との関係、特に教材の版權や講員登録における調整など話し合いの中で乗り越えた諸問題がいつぱいあつたことでしょう。

大会の変遷

第一回、第二回大会は詠唱教導司の菊地謙雄先生、曾我晃也先生を中心に各教区役員、教化センター役員の方々が善導忌のもち方を考え、手さぐりで手づくりの法要大会を考えられました。それは善導忌記念の詠唱大会だったのです。菊地先生のご挨拶や曾我先生のユニークな指揮ぶりが温かく懐かしく思い出されます。

詠唱奉納大会も次第に回数を重ねていき、講員さんの登録も年々増加していきましました。平成四年には御忌の一日だけでは収容しきれず、二日間に亘つて大会を行うことになりました。

平成六年からは増上寺の御忌も四月二日か

ら七日までと、それまでより十日ほど早く行われるようになり、奉納大会は四月三日と四日に開催するようになりました。

平成十三年には増上寺会館、光摂殿が落慶し二日間で二、一九九人の講員さんの参加を得、二千人を初めて超えることとなりました。

本年、二十周年は四月二日、三日、四日の三日間を創立二十周年に充てさせていただき、毎日千人法要と銘を打ち「講員の講員による講員のための大法要」を開催する運びとなります。全国はもとより、遠くハワイ吉水講の皆さまもご参加下さる予定で、すでに三千五百人の参加者を超えるお申し込みをいただいております。

法然上人の御忌は上人のお念仏を中心に、たくさんのお念仏の輪が詠唱のこころを通じて展開されてゆきます。

詠唱——念仏。念仏——詠唱。念仏の助業が称名正定の業に結ばれて、その心うたれた講員みなさんの真心を阿弥陀如来さまは漏れなくへだてなくお救い下さることでしょう。

今後の展望と教師、講員に望むこと

浄土宗吉水講が当山で発祥して既に五十六年、知恩院本部は五十周年、更に増上寺本部は二十周年とふし目ふし目を乗りこえて全国に吉水講員が凡そ三万六千人となりました。

これからの吉水講を考えると、詠唱は吉水講の中だけの詠唱ではなく、一般大衆の中の詠唱であることを頭に入れておかねばなりません。講中だけで考えるのではなく、浄土宗全体、あるいは一般大衆の詠唱として取り組んでいく必要があると思います。

三万六千人という講員は他宗の講員数に比べて、さほど多い人数ではありません。檀信徒教化の数からするとまだまだ少のうございします。ですから信条の中の「広く同信を募り、社会の浄化につとめます」によって同信の輪をもっともつと広げてゆかねばなりません。それにはどうしたらよいか。

一、よき指導者を育成すること。

二、詠唱運動をもつと展開すること。

三、詠唱だけが孤立しないように他の団体やお仲間と親しく交流させていただくこと。

四、講員全体が篤く三宝を敬い、明るく正しく仲よくの心をもつておけいこに励むこと。

と。が肝要と存じます。

詠唱は釈尊の教え、わが宗祖の念仏の教えを基本にしたお歌です。お念仏を広めるならば是非詠唱を試みて下さい。念仏教化には大変効果があり、お念仏を称える檀信徒の近道であります。お檀家さん呼びかけて少人数からでもお始めいただければ必ず道が開けてまいります。

寺庭婦人はもとより浄青会員の中に詠唱を志す同朋が増えていることは、喜ばしい限りです。カラオケがお好きで上手な教師の方がたくさんおられます。この方々が詠唱をやられたら檀信徒の皆さんはよろこんでついてくれるでしょう。

俗っぽい考えですが、もともと詠唱は民衆の中で生れ、育てられた和讃であり、民俗信仰のご詠歌でもあるからです。

教師の皆さまにも心からお取り組みいただければ有り難いことです。

大本山増上寺吉水講 教区別議員数(平成13年度)

教区No	教区	議員数
1	北1	68
2	北2	15
3	青森	531
4	岩手	749
5	秋田	89
6	山形	1232
7	宮城	477
8	福島	331
9	群馬	291
10	栃木	364
11	茨城	222
12	埼玉	397
13	東京	396
14	千葉	521
15	神奈川	816
16	山梨	275
19	長野	1440
20	静岡	1264
	合計	9478



浄土宗吉水流の原点

副総本部長
菊地謙雄



愛知県に生まれた私は高校時代には野球をやっていた、甲子園で優勝もしました。その後大正大学に入学、運動ばかりではと、伝通院の近くにあったタンダバハ音楽普及研究会に入ったのが、確か昭和の初めでした。毎週水曜日の午後三時から讃仏歌と舞を教わっていました。舞は仏教洋舞で、その楽しさから学校をさぼって通っていました(笑)。真言宗のお坊さんが多かったですね。

そうするうちに「本多君(旧姓)、うちで教えてくれないかね」と声をかけられ、主に寺庭婦人を中心に教えることになりました。どうやらそれが浄土宗の吉水講の始まりのようです。振り返れば人生の半分は詠唱でしたが、こうして吉水流発祥の地である増上寺で二十周年を迎えられるのは本当に有り難いことです。

(三浦・紫雲庵にて談)

平成十四年度（四月二日、四日）
 大本山増上寺吉水講 創立二十周年記念詠唱奉納大会
 第二二回御忌詠唱奉納大会

第一部	一千人御忌法要
9:45	先、版木
	次、来賓入堂
9:50	次、法鼓
	次、「吉水講講歌」
10:00	次、開式の辞
	次、喚鐘
	次、導師式衆入堂「入堂和讃」
	次、香偈
	次、三宝礼
	次、四奉請散華（三奉請散華と法然上人入道場散華奏）
	次、懺悔偈 十念
	次、「献灯和讃」献灯・献花・献香（教区代表大師前献灯）
	次、表白
	次、「月影の御詠歌」
	次、一枚起請文
	次、「法然上人頌」 参加者に灌頂洒水
	次、摂益文
	次、念仏一会
	次、唱礼 十念
	次、「光明摂取和讃」
	次、回向 講員先亡精霊追善
	次、総回向偈
	次、同唱十念
	次、廣開偈 十念
	次、十念御授与
	次、御法主御垂示
	次、表彰状授与
	次、導師式衆退堂「退堂和讃」
	次、本部長挨拶
	次、来賓祝辞
	次、閉式の辞 11:20終了
第二部	法楽 川田正子コンサート
	11:30～12:15
	新曲新舞奉納
	13:00～13:20
第三部	支部奉納
	13:20～15:40
第四部	法然上人二十五霊場全体奉納
	15:50～16:20

大本山増上寺吉水講 講歌

仁誉恭俊上人 御作
荒 木 憲 子 作曲

♩ = 80
やさしく温かく

mp

く れ な い の こ も ん -をく- リ お お -み どう
う つ な ね の こ -だ -まさわ か お す -の ね-
こ え い か と な え -てゆけ- そ し -さ ま-
わ れ を な -を と なえよ と み ほ -と け-

v *mf*

- りよ う てを あわ す つた え きし ほう
が す が し く ひぶ く え い か の こえ
の み こ え き こえ る み ほ と け に むき
は す す め た ま え り ひ た す ら に なむ

v *f*

ねんさまの み お し え を た た えうたえば
もゆたかに う お た い き て た こ ろひとつに
てあゆまん ひ た す ら に み ち びきうけて
あみだぶつ と な え つ つ え に しむすべば

v *mf* *f*

か ぜ か お り は な ふ り し き る ぞう じょ う じ ぞう
いつの ひ も つ な ど う は た の し し
いきる み ち あ し か ど り か ろ し
み い の ち に い か さ れ い き る

mf *poco rit.....*

じょ う じ よ し み ず の こ う -



二十周年を記念して作られた「大本山増上寺吉水講講歌」のCD。



FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では

読者の自由な参加をお待ちしています。

詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、

TVウオッチング、紀行文、その他創作等。

あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。

どしどし編集部にお寄せ下さい。

浄土誌上句会



〈特選〉

●橋
探梅や赤き小さな橋を跳ぶ

水野 司郎

単に梅林へというのではなく、広い庭園のどこかに梅林があるというのが、より近いのではないか。朱塗りの小さい橋をひと跳びに渡ったというところに、作者の心の弾みを読みとることができる。

〈佳作〉

川下り笠の紐解く渡月橋

中島 一子

水尾引いて橋くぐりゆく鴨の群

井村 善也

朝の霜木橋にのこる下駄の跡

浜口 佳春

●前

〈特選〉

前をゆく破魔矢に胸を二度突かれ

石原 新

お参りの群れにもまれながら帰る。破魔矢を抱いている者が前を歩いていて、それで胸を突かれたのだ。二度突かれたというのが、

選者=増田河郎子

〈特選〉

職なきをさくらりと告げて年始客

佐藤 雅子

●自由題

いかに混んでいるのかを如実に伝えている。
写実の強みである。

〈佳作〉

前弾きの二の糸緩ぶ寒紅梅

河合富美枝

落葉道前かがみなる老の影

細田 初枝

前向きに生きよと友の年賀状

大村 和代

不景気で職を失う人が多い。この人もそう
なのだろう。年始に来てよもやま話をしてい
る中で、ふつとそのことを告げたのだ。さら
りとだが、言うほうにも、聞くほうの胸にも
重いことである。

〈佳作〉

細雪マニキュア赤き手をよする

嶋田喜代子

大工小屋かんなの上に注連飾る

山口 信子

水音のすでに暮れおり野水仙

池田 伊吹

岸商店自由題

※季語ではありません

浄土誌上句会の
お知らせ

参加作品.....編集部選

橋

春望や地下の架橋海ぼたる
鶴かえるとなりの国の架け橋に
水鳥の水透きとほる神の橋
松緑天の橋立白砂踏む
橋の名を残し銀座の川埋まる
冬虹の橋両毛を跨ぎけり
海の道朝もやの大吊り橋にゆらり車も
水温む橋に橋の名ひとつずつ
着ぶくれし背を宇治橋に反らしおり
寒晴れの三日続きの橋渡る
橋ゆらぐ程にトラツクみかん積み
雪雲に追われて渡る吊り橋かな
半円の橋渡りゆく初荷かな

鶴田喜代子
中島富士子
河合富美枝
山本のり子
細田初枝
片桐てい女
山本美代子
大野肇
蘭田郁子
山口信子
石原新
加藤政男
増田信子

前

花菜漬八百屋の前に並びけり
前カグに土大根入れ友が来る
除雪車の遠ざかりゆく夜明け前
仏前に足跡残す春の闇
草萌や前に何見し夫の綱
前の約束きれいに忘れ春おぼろ
初詣牛歩で進む宮の前
前のめりしつづ日暮れの枯野道
前うしろ住まぬ家並ふ冬これぬ
駅前の土産屋賀状暮がかげ

自由題

煮凝りの弾みて箸の先逃ぐる
花咲くを心のうちに寒肥す
月冴える曲は第九に移りけり
病無く正月迎へあ嬉し
はにかみし入学児童村のバス
初場所や行司の美声凛として
寒すばる仰向いて足とられけり
新刊の文庫本買ふ春の街
爆竹に明け籠が舞う春節会
湯豆腐や寺の離れの薄明かり
常備菓詰めて旅立つ冬の朝
雪しんしん鱗に刺されし指疼く
鬼丸蹴り飛び立ちぬ寒鴉

金谷友江
山本のり子
佐藤雅子
大場清
片桐てい女
山本美代子
中島一子
蘭田郁子
増田信子
加藤政男
中島富士子
金谷友江
河合富美枝
飯島英徳
山本のり子
細田初枝
片桐てい女
山本美代子
中島一子
谷しげ子
山口信子
増田信子
小久保まな

締切・五月二十日
発表・『浄土』二〇〇二年七月号
選者・増田河郎子（『南風』主宰）
応募方法
● いずれの題とも数の制限はありません。
● 特選各1名・佳作各3名
葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下さい。
宛先
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
月刊『浄土』誌上句会係

漫画で楽しい仏教用語

漫画・藤井ひろし

如実

「によじつ」と読みますが、日常会話ではあまり使われない言葉かもしれません。会話ではちよつと堅苦しい感じを与えそうですね。

さて、意味ですが、

「あるがまま、真実、真実の道理にかなうこと」ということです。

そして、如実智見とつながると、正しく認識することになり、これは仏教におけるものの見方の基本とされます。

如実智見をあなたの辞書に登録してはいかがでしょう。



編集後記

シャボン玉壊れるときを見つめている 岱潤

水上勉作の『釈迦内極唄』という演劇を、九十七年から全国各地で百二十回以上上演している劇団がある。劇団希望舞台という小さな劇団だ。

この『釈迦内極唄』という話は、釈迦内は秋田県の地名で、その在所の火葬場で住み込みで仕事をしている家族の話である。職業ゆえ忌み嫌われ、蔑まされながらも、家族の深い絆と愛情によって、わけへだてない、人間に対する深いやさしさが、主人公の末娘ふじ子をささえている。

酒を飲まずにはいられなかった父、その父が畑いっぱいに育てたのは、人の灰で育てたコスモスだった。

父が死に、火葬場を継ぐことになったふじ子が釜の掃除をしているところから幕が上がる。「花は死んだものの顔だでや」と言った父の声が聞こえてくる。ふじ子の胸に家族の思い出がよみがえる、二人の姉のこと、花岡鉦山事件で目の前で殺された崔さんのこと、そしてその時の父の態度……。「差別とか人権」という言葉はひとつも出てこないが、ふるえるような怒りの奥底に、すがるようないのちの願いが聞こえてくる。人間の哀しさと恐ろしさ、そして同時に人間のやさしさと強さが感じられる。

(長)

ホームページ <http://www.jodo.ne.jp>

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤
斎藤光道
村田洋一
佐山哲郎

編集顧問

大室了皓

浄土

六十八巻四月号 頒価六百円
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 平成十二年二月二十日
発行 平成十四年四月一日

発行人

真野龍海

編集人

佐藤良純

印刷所 株式会社
シーティイー

〒一〇五〇〇一一

東京都港区芝公園四・七 四明照会館内

発行所

法然上人鑽仰会

電話〇三(二五七八)六九四七

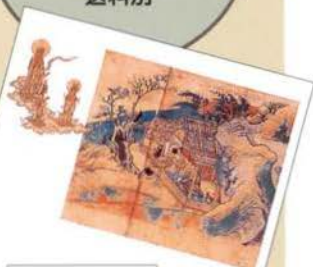
FAX〇三(二五七八)七〇二六
振替〇〇一八〇八八二二八七

大本山増上寺蔵・残欠二巻本〈重文〉

法然上人絵伝が 絵葉書になった!!

1セット 8枚組
美装封筒入り

定価:800円
(本体+税)
送料別



菩提寺修学の図・牛車
母子の別れと旅立ちの図
菩提寺修学の図・講義
叡山入室の図

後白河法皇に御談義の図
道俗教化の図(立教開宗)
善導和尚来現を拝写せしむる図
阿弥陀三尊影現の図

お申込みは下記まで
発行=法然上人鑽仰会

東京都港区芝公園4-7-4
明照会館内 〒105-0011
電話/03-3578-6947
FAX/03-3578-7036
振替/00180-8-82187

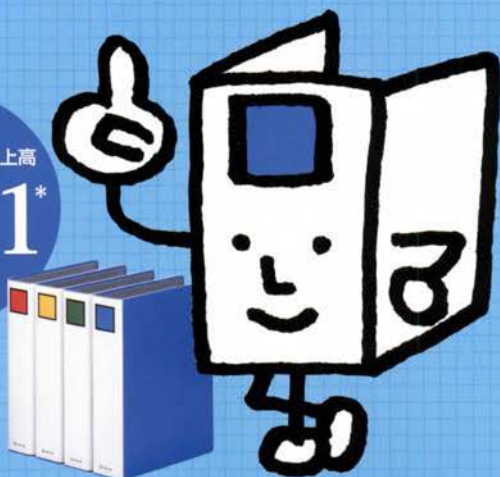
上の絵葉書は実物と多少異なります。

KING JIM

「グリーン購入法」
 適合商品一覧表
 ホームページで公開中!

パイプ式ファイル売上高

No.1*



ありがとう

日本中のオフィスで、選ばれ続けてきました。

1954年に日本で初めてパイプ式ファイルを発売して以来、私たちキングジムは、延べ3億冊のファイルを世に送り出してきました。どの職場でも、必ず見かける **■**マークのファイル。その名前知らなくても、カタチを見ればきっと、「あっ、あのファイルね」と思われることでしょう。そしていつのまにか、キングジムのファイルはお客様の間で「キングファイル」という愛称で呼ばれるようになりました。そこで私たちは、このニックネームを大事にしようと考え、当社のパイプ式ファイルの名前を「キングファイル」に統一することにいたしました。日本全国の職場、ビジネスマンやOLのみなさまに愛用されて、3億冊。これからは、**■**マークの「キングファイル」とお呼びください。

*パイプ式ファイル売上高：矢野龍溪研究所調べ

日本のスタンダードファイル
キングファイル



ISO 14001
 JQA/BK03096
 2002.07.24
 認証番号



ISO 9001
 JQA/BK03096
 2002.07.24
 認証番号

株式会社キングジム
 お客様相談室

フリーダイヤル

0120-79-8107

ファクシールのパートナー

受付時間 平日(月曜日～金曜日)
 午前9時～午後5時30分

●東京03-3864-1234 ●名古屋052-935-4038
 ●大阪06-6263-1654 ●福岡092-413-3977

www.kingjim.co.jp